

9月2日(渡辺治氏)から

11月3日(きむらゆういち)につなげよう

- 5. 3 ; 安倍首相 「9条に自衛隊を明記する」2020年改憲案表明
- 6. 24 ; 2020年に新しい憲法が施行される年にしたい。秋の国会に提出。
- 7. 2 ; 東京都議選で自民党は歴史的惨敗。

「九条の会・岐阜県交流会・
2017 in 各務原」
講演・討論 大集会

9. 2 渡辺 治 (一橋大名誉教授)

安倍改憲を阻む国民運動を
9条加憲は、戦争への道
13; 30~ 各務原市産業文化センター
主催 「九条の会」岐阜県連絡会

ながら憲法カフェ 8月26日

長良公園研修センター10時
主催 長良九条の会

「憲法と私たち」

憲法と自衛隊明記を考えよう
助言者 岡本浩明弁護士
*参加者からの問題提起
*自衛隊と憲法9条
*アベ加憲の問題点と反論

今、憲法9条が危ない。自衛隊明記で、9条が持つ意味が180度変わる。
自民党の4項目(戦争放棄9条、教育無償化、緊急事態条項、参院選の合区)は
”毒薬”と”アメ”をセットでのませる案。関係のないオリンピックとセット。
今後、「民意」が方向性を決める! 講演を聞き、話し合いましょ。う。
アベ改憲2020年(加憲)は、憲法の基本=平和主義に反する“矛盾”の確認を。

9. 19 中野 晃一講演会

18; 30~ ぎふメディアコスモス
民主主義の再生へ
市民と野党の共闘を進めよう
主催 ピースハートぎふ

8.18 18; 30 山城博治さん ワークプラザ

8.19 10:30 総がかり行動 金公園

10. 1 森 英樹 講演会

14; 00~ 日光コミュニセン
憲法の「本当の力」のはなし
主催 憲法9条を守る
岐阜県共同センター
(今後の予定)

「2017 ぎふ平和のつどい」

11. 3 きむらゆういち 氏

(絵本作家)

「あらしのよるに」と私がおもう平和」

岐阜市民会館 13; 30~

主催 2017 ぎふ平和のつどい実行委員会

長良九条の会だより

NO127

2017年

8月号

事務局 林

090-6769

-9809



長良九条の会(企画申)
11周年記念講演会
10. 22 北部コミュニセン

みんなの広場

長良西在住 Hさん

あの相模原、津久井やまゆり園の事件から一年。メディアで大きくとりあげている。この一年前の事件は、自分たちにいるんな問題を突きつけているように思えてならない。
「わたしたち一人ひとりの心の中に差別はある」

日本国憲法第11条は「国民のすべてに基本的人権を永久の権利として保証している」「一人ひとりの命が大事」。憲法の全体に貫かれている精神だと思いが、どうだろうか。

幸福追求権も、戦争放棄も・・・命より大事なものが他にあるのだろうか。自分の心に問いかける。差別の心はなぜ起きるのか。本質的にもって生まれたものだろうか。いや、違う。

この事件を契機にして、よくよく考えてみたい。この社会の中に巣くう目には見えない、悪を!

「核兵器禁止条約」採択と私たち

72年前、広島・長崎で、一瞬にして奪われたたくさんの命。その地獄を体験し、かろうじて生き延びてきた被爆者の平均年齢は、81歳を超えている。「私たちの生きていく間に核兵器廃絶を」の悲願がこの7月、国連で「核兵器禁止条約」として採択された。

残念ながら唯一の被爆国の日本政府は、この会議を欠席した。「あなたがこの席にいてくれたら」と書かれた折鶴が日本の机に置かれていた。

「核兵器の被害は私たちで最後にしてほしい」被爆者の証言を直接聞ける時間は少ない。でも私たちは、学び想像することが出来る。たつた72年前、私たちの国で起きたことだ。私たちは政府に、条約にサインさせる核廃絶を目指す力を持っている。

安倍首相は8月6日広島で、核兵器禁止条約にはふれず「真に核兵器のない世界を実現するため、核を持つ国と持たない国双方に働きかけ、国際社会を主導していく」と語った。その具体的な道筋を示してほしい。莫大なお金を人類・地球を滅ぼすことに使うより、平和のために使うことの方が賢明でないか。甚大な原発事故を自ら起こしながらも原発を推進する政府。

「核兵器を持つことは憲法違反ではない」とまで言う政府首脳たち。政府は人の命より、原発・軍需産業の儲けや日米軍事同盟の方が大事なのだろうか。

核兵器や原発は、低コストでもないし環境を破壊する。原爆で亡くなった人や被爆者の思いを引き継ぎ、あやまちを繰り返さないため、今こそ私たちの小さな「不断の努力」が求められている。

映画「太陽が落ちた日」の会に参加して

この会は、ピアノ演奏、映画、トークの三部から出来ており、それぞれ良かった。「太陽が落ちた日」は、監督の祖父の被爆のことを探っているうちに医師肥田舜太郎さんと元看護師の内田千寿子さんを知り、ヒロシマ・ナガサキと福島原発事故が、内部被曝で繋がっているという反核映画だった。90歳の内田さんの言葉「大きなものに言わないけんじやが、一人ひとりが身を守らにやいけん」と体験を語ったり、免疫力がつくというドクダミをお茶にして福島に送ったり、日々、自分で育てた有機野菜での食事作りなどを見ていると彼女の静かな怒りを感じた。

また、過去に人々は沈黙させられてきた、現在においての沈黙はどうなのか、と問いかけている映画だった。

今、岐阜が核のゴミ捨て場になる可能性があるのをご存知だろうか。このゴミ問題も内部被ばくと一緒に考えなければいけないと思った。

トークで気になったのは、仲大盛さんの沖縄、南西諸島の自衛隊基地の話だ。中国脅威論をもとに宮古島にミサイル部隊の司令部配備や弾薬庫を造り、石垣島にもミサイル基地の要塞化を目論んでいるという。住民が心配するのは、地下水の汚染やこれら中国への挑発行為が住民にとっては、かえって脅威になる。

「我らは、昔から中国を脅威とは思わなかった。上手くやっていた」という話だった。

このような南西諸島の軍事要塞化を憲法九条の下に、やっていい事か！

(後藤記)

〈訳書紹介〉 岩間龍男他訳

マイケル・ビルトン。ケヴィン。シム著

明石書店 本体5800円

TEL03 (5818) 1171

「ヴェトナム戦争ソニミ村虐殺の悲劇」

4時間で消された村

*岩間龍男さんからのメッセージ

2004年頃、知人の大学の先生より、この本の訳書を出したいと言うお話があった。当時、英語教師をしていた私は、英語を価値あることに使いながら学びたいと思っていたので平和を考える契機となる本書の翻訳は自分の思いと合致するものであった。さっそく岐阜県内外の知り合いの英語教師で、「ソニミ翻訳プロジェクト」を立ち上げ、本書の翻訳作業に取り組んだ。その後、諸般の事情から翻訳作業は長い間、とん挫していた。

2015年の春よりこの翻訳作業をその大学の先生と私を含む5名(当初のプロジェクトとは全く別のメンバー)で作成された下訳を集团的に改修して、2017年によく訳書の刊行にこぎつけた。文字通り私としてはこの翻訳には足掛け10年以上の歳月を費やしたのでは是非多くの人たちに読んで欲しいという強い願いを持っています。

※ヴェトナム戦争中の1968年3月16日、ソニミ村で非武装のヴェトナム人住民500人余りが米兵に虐殺された。この凄惨な事件はなぜ引き起こされたのか。米軍の軍法廷で隠ぺいされた真実に迫り、ごく普通の人々をも狂気に追い込んでいく戦争の恐ろしさを浮き彫りにする。

◆本書は岐阜市図書館(ぎふメディアコスモス)は既にこの本を所蔵しています。

(世界人権問題叢書98)